

# 進路だより

第1号



令和6年 4月26日(金)

青森県立八戸東高等学校 進路指導部

## ◇76回生の進路状況

令和6年3月卒業の76回生の進路状況は、以下の通りとなりました。

★国公立大学合格(延べ) 97名

(総合・学校推薦型 28名、前期日程 64名、中・後期日程 5名)

★私立大学合格(延べ) 215名      ★短期大学合格(延べ) 20名

★専門学校合格(延べ) 42名      ★公務員 3名、自衛隊 1名、民間企業就職 3名



## ◇合格体験記

今号では、進路目標を達成した卒業生の合格体験記を紹介します。成功例や失敗例などを参考にして目標達成の手がかりを探してみてください。

一人目は推薦入試で不合格になった後一般入試に切りかえた生徒です。どのようにメンタルを立て直し成功したかの過程に注目して読んでください。

### 北海道教育大学 教育学部 国際地域学科 地域教育専攻(前期) 「不合格と合格を体験して」

私は、12月に推薦で受験した大学が不合格となってしまった時、奈落の底に叩き落とされたような気分でした。それまで勉強もボランティアも全力で取り組み、推薦の準備をコツコツと積み上げてきたのにその頑張りを全否定されたようでした。推薦入試は受ければ天国、落ちれば地獄と言われます。そこからの共通テストへの切り替えというのは簡単なものではありませんでした。今から勉強して間に合うのか、私立受験を中心に考えて、教科を絞って勉強するべきか本当に悩みました。

しかし、そんな時、私を立ち上がらせてくれたのは「周囲の人たちの支え」でした。推薦入試の合格発表直後、不合格で涙を隠せなかった私を、「今日はおごりだから食べて忘れよう」と手を引いてスローに連れて行ってくれた友達。一緒に頑張ろうと手を差し伸べてくれた一般受験を控えた友達。そして、今までの私の頑張りを一番近くで見守り、最後まで諦めないよう叱咤してくれた家族。みんなのおかげで私は前を向くことができました。短期間で伸びが期待できそうな社会系科目を中心に学習し共テでは、自己ベストと言っても良いくらい私の中では満足のいく点となりました。そして先生と話し合っ、推薦のために練習した小論文と面接を二次試験で活かすことができる北海道教育大学に出願することに決めました。他者から見たら、推薦に落ちた、受験にうまくいかなかった人と思われるかもしれないけれど、私の心は晴れやかでした。一度の失敗にめげずに懸命に努力して、大学は違えど、目指していた国立に挑戦し、合格を掴み取ることができた自分を誇らしく思います。後悔はないです。

人生は上手くいくことばかりではありません。努力は報われず失敗することもあります。ですが、大切なのは成功ではなく、自分自身がどう失敗に向き合うかだと思います。後輩のみなさんも受験という大切な人生を賭けた勝負を笑顔で終われることを祈っています。

2人目は推薦入試で合格した生徒です。日頃から学業、部活動、ボランティア活動に活発に取り組んでいました。小論文、面接練習にも計画的に取り組み着実に力を付けました。

### 青森県立保健大学 健康科学部 看護学科（一般推薦）

#### 「受験するにあたって心がけたこと」

私は推薦入試で青森県立保健大学の健康科学部看護学科を受験しました。推薦入試を受けるにあたって常に早めの準備を心がけました。総合的な探究の時間での大学調べで青森県立保健大学について知り、自分でも色々と調べ、青森県立保健大学の推薦入試を一年時の後期から意識し始めました。私が推薦入試で合格を勝ち取ることができたのは早めから受験したい大学を決めて、目標を定めることができたからだと思っています。一年時から日々の学習態度やテストに挑む姿勢などを大事にしてきました。

看護学科の推薦入試の入試方法は、英語での小論文、作文、面接です。また志望理由書の提出も必要です。私は英語が苦手なので小論文を特に強化して対策を行いました。小論文と志望理由書は八月から対策を始めました。担当の先生に「毎日のように添削に来る生徒が合格する」と言われたためその言葉を信じて、毎日とはいきませんでしたが週に2回添削を受けることができるように家での時間を大切にしていました。小論文は約600字程度題材に沿って書くので色々な情報を知っていることが大事だと感じました。先生方によく、新聞を読むように言われますが時事問題について興味を持つことは推薦入試を受けるにあたってとても大事だと感じます。そして英語力を上げるために八月ごろからは英語の授業を今まで以上に真剣に受けたり、通学の時間に単語帳を見たりして努力しました。また、面接を受ける上で話題作りが必要です。私は音楽部に所属していました。クラスのみんなが受験モードに入っている中、九月まで部活動を行い小論文などの添削を受けることはとても大変でしたが、最後までやり遂げたことによって面接で話す話題が多く作ることができました。部活動だけでなく文化祭の模擬店責任者やボランティア活動など面接で使える話題や作文で使える話題をたくさん用意してきたことも合格に繋がったと考えます。

3人目は八戸市役所に採用になった生徒です。学業の他、ボランティア活動、部活動でのリーダーシップ経験を志望動機に繋げて希望の職に就くことができました。

### 八戸市役所(一般事務)

#### 「積み重ねの大切さ」

私は以前から八戸市で暮らし続けたいと思っていたのですが、次第に八戸市のまちづくりや市民の生活の役に立てる仕事がしたいと考えるようになり、八戸市職員を目指すようになりました。八戸市について色々調べるうちに、美術館やマチニワなどの施設がどのように使われているかに興味を持ち、それらの活用を考える仕事に携わりたいという目標もできました。

私は進学するよりは早く仕事を始めて社会の役に立ちたい思いが強かったので高卒者採用試験の受験を決めました。最初は公務員採用試験について何も知らなかったなので、インターネットで情報を集めたり、募集要項を調べたり、参考書を買って自分に合った本を探したりしました。はじめはほとんどの人達が目指す進学ではなく公務員を目指すことへの不安もありましたが、同じく公務員志望の仲間へ何度も勇気をもらいました。共に頑張れる仲間がいることは大切なことだと実感しました。

周りとは違う進路を目指していたとしても、それまでに積み重ねたものは必ず役に立つと考えます。試験対策の勉強や面接練習だけでなく、ボランティアや部活動などで経験したことも直接は関係無いように思えても、その全てが合格に結び付いたと強く感じています。熱心に取り組んで身に付けたものは自分の強みになります。その経験を自分の進路に是非生かしてもらいたいと思います。